

広島市の下痢症患者由来サルモネラの血清型別 (2006 年)

生 物 科 学 部

はじめに

広島市内で発生した下痢症の状況を把握するため、医療機関等で分離された菌株について菌学的な解析を続けている。

2006 年に広島市内の病院、臨床検査センターなどの医療機関で分離され、当所に分与されたサルモネラ菌株(チフス菌を除く)の血清型別結果について、その概要を報告する。

方 法

1 材料

2006 年のサルモネラについて医療機関から分与された 21 株を供試菌株とした。

2 血清型別

市販のサルモネラ診断用免疫血清(デンカ生研)を用い、常法に従い血清型別を行った。

結 果

1 サルモネラの分離状況

過去 4 年間の分離株数を表 1 に示した。2006 年

表 1 年別サルモネラ分離状況

O 群	年別分離菌株数			
	2003	2004	2005	2006
04	14	12	7	8
07	9	8	12	9
08	80	2	6	0
09	2	60	10	4
計	105	82	35	21

は 21 株で、過去 4 年間で最も少ない菌株数となった。

2 血清型別検出状況

血清型別検出状況を表 2 に示した。分離された 21 株は 10 種類の血清型に分けられた。S.Saintpaul が 6 株(33.3%)で最も多く、次いで S.Enteritidis が 4 株(22.2%)、S.Infantis が 3 株(16.7%)であった。

謝 辞

菌株を分与していただきました広島市立舟入病院検査科をはじめ各医療機関に対し深謝いたします。

表 2 血清型別検出状況

血清型	分離菌株数
04 S.Typhimurium	1
S.Saintpaul	6
S.Agona	1
07 S.Infantis	3
S.Virchow	1
S.Montevideo	1
S.Bareilly	1
S.Braenderup	1
UT	2
09 S.Enteritidis	4
計	21